

# 地域づくりインターンシップ in 鈴鹿市 活動レポート

地域づくりや地域活性化に関心のある大学生5名が、鈴鹿市の「愛宕地域づくり協議会」でインターンシップを行いました。活動では、子ども食堂の運営補助やシンボルマークの提案などに取り組み、地域の方々と意見交換も行いました。

## インターンシップの活動内容

### 子ども食堂でのレクリエーション企画等

子ども食堂「かもめっこ」に参加し、受付やレクリエーションなどの運営補助を行った。クリスマス会では学生が中心となり、子ども向けのリース作りワークショップを企画・運営した。材料の準備から当日の進行、子どもへの声かけなどを担当し、行事運営を実践的に経験した。



▲ワークショップの様子



▲クリスマス会全体の様子

### シンボルマーク作成の提案

地域づくり協議会の役員会に参加し、住民の地域への愛着が少ないという課題を知り、愛着を持ってもらうためにシンボルマークの作成を提案した。愛宕地域の魅力や大切にしている想いを整理し、4つのデザイン案を作成した。シンボルマークの選定には住民による投票を行い、住民の方の声を大切にしました。



▲シンボルマークの投票を実施



▲協議会の方との打ち合わせ

## 若者と地域の意見交換会で得られた気づき

### ① 若者が参加しやすい「きっかけづくり」の必要性

地域活動は高齢者の方が取り組むものというイメージが若者の参加障壁になっていると感じた。友人や家族と気軽に参加でき、楽しさを実感できる活動を設けることで、自分の地域でどのような取組が行われているのかを学ぶことが重要だと考えた。（学生）

若者に感心を持ってもらえるよう、普段の活動の意義をもっと表現できるようにならないといけないと感じた。（地域）

### ② 当事者として関わることで深まる学びと関心

見学や体験だけでなく、自ら企画や取組を立案することで、地域やまちづくりについて主体的に考えるようになって感じた。（学生）

### ③ 「好き」「楽しい」が継続的な関わりにつながる

活動を通して地域への親しみや愛着が生まれ、継続して関わりたいと感じるようになった。若者を惹きつけるには、地域の魅力を発信し、楽しい体験や人とのつながりを通して「また来たい」と思える関係づくりが重要だと考えた。（学生）

## 参加した学生の感想

■地域活動は当日だけでなく、事前準備が安全や楽しさを支えていることを学んだ。協議会の方々の想いに触れ、将来は地域に寄り添うまちづくりに関わりたいと感じた。（三重大学 3年）

■協議会の方々の地域活動への思いが印象に残った。シンボルマーク投票を通して、目的と行動を振り返り、地域の意見を反映する姿勢の大切さを学んだ。（三重大学 3年）

■地域の歴史を子どもたちに伝えるためには、まず自分が地域を知ることが重要だと気づいた。今後は自分の地域について学びを深めたい。（三重大学 3年）

■地域視点で高校の先生や子どもたちと関れたことが印象的だった。運営側に立つ経験を通して、普段得られない学びを得ることができた。（三重大学 3年）

■企画を実行する難しさを体験し、当事者として地域課題に向き合えた。実践を通じた学びが、自分の中に確かな経験として残った。（三重大学 3年）



▲クリスマス会を見守る学生